

Economic Monitor

所 長 三輪裕範 03-3497-3675 miwa-y@itochu.co.jp
主任研究員 丸山義正 03-3497-6284 maruyama-yo@itochu.co.jp

輸出は増勢維持も、欧州や中国の需要下振れに留意

5月の輸出は大幅増加も、円安による価格押し上げを差し引くと、増勢はそれほど強くない。円安の輸出数量押し上げ効果は強まるも、欧州向けや中国向けを中心として需要の弱さが足を引っ張る状況。5月の貿易赤字は拡大も均せば一進一退の推移。夏場まで横ばい推移の後、緩やかに縮小へ。

円安で輸出額は大幅増加も、実質ベースでは小幅の伸び

財務省が公表した2013年5月の貿易統計によると、輸出額（名目輸出）は前年比10.1%（4月3.8%）へ増加幅を拡大した。財務省試算の季節調整値でも前月比3.2%（4月0.6%）と大幅に増加している。但し、5月は円安の進行により輸出物価が前月比1.7%上昇、前年比でも13.5%（4月8.9%）へ伸びを高めており、実質ベースでの伸びは名目ベースを大きく下回る。当社が輸出物価（輸出価格）の変動を控除の上で試算している実質ベースの季節調整値は5月に前月比0.6%（4月▲0.6%）と増加こそしたものの、その幅は小幅である。4～5月平均の水準は1～3月期を0.6%上回り、輸出の増勢は継続も、1～3月期の前期比1.6%からは鈍化している。

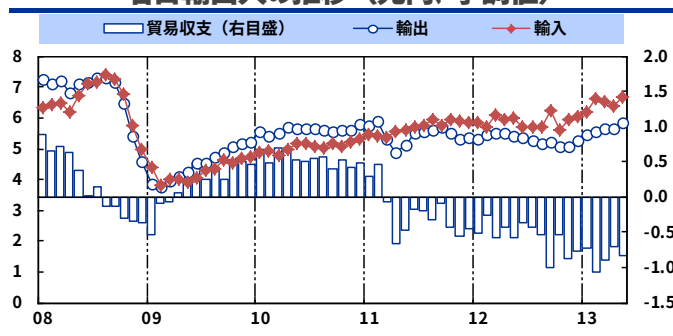
輸出は増勢継続も、最終需要動向の下振れに留意

円安が輸出数量に及ぼす効果は徐々に強まりつつある。しかし、景気回復の遅れている欧州向けや中国向けが低調に推移し、足を引っ張っている。為替変動による押し上げが、需要動向の下振れにより一部打ち消され、輸出の増勢が鈍っていると言える。今後は円安による押し上げが更に強まり、輸出は増勢を強めていくと考えられるが、需要動向次第では増加ペースが緩慢なままにとどまる可能性には留意が必要だろう。

4～6月期の輸入は弱い

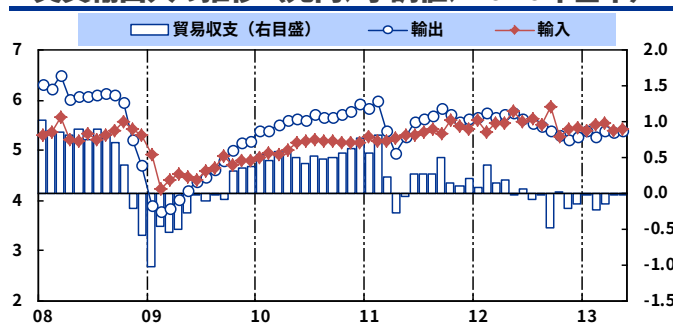
5月の輸入額は前年比10.0%（4月9.5%）に伸びが高まった。季節調整値では前月比4.7%（4月▲2.4%）の大幅増加である。円安により、輸出物価と同様に輸入物価も5月に前月比1.2%と上昇した。但し、エネルギーの国際価格低下¹に伴い、上昇幅は4月1.5%から幾分鈍化している。価格上昇を控除した当社試算の実質輸入は前月比0.6%（4月▲2.8%）と5月に増加こそしたものの、名目に比べれば低い伸びである。実質輸入の4～5月平均は1～3月期を1.3%下回る。

名目輸出入の推移（兆円、季調値）



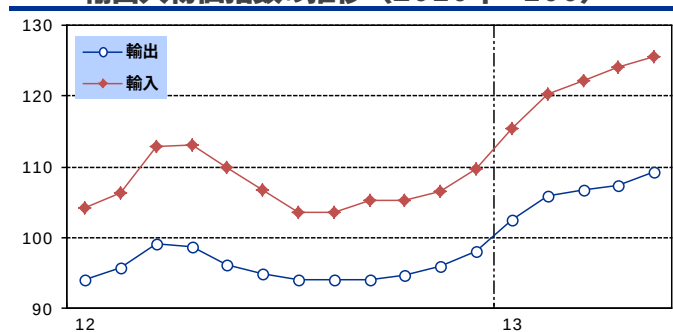
(出所) 財務省

実質輸出入の推移（兆円、季調値、2010年基準）



(出所) 財務省、日本銀行

輸出入物価指数の推移（2010年=100）



(出所) 経済産業省

¹ 5月の石油・石炭・天然ガスの輸入物価は、契約通貨建てが5月に前月比▲2.7%、円貨建ては0.2%。

品目別には鉱物性燃料や食料品、化学品の輸入が低調だった。

貿易赤字は一進一退

5月の季節調整値ベースの貿易赤字は、輸出を上回る輸入の増加により、8,210億円と4月の7,028億円から小幅拡大した。貿易赤字は均せば高水準での一進一退が続いている。赤字拡大に歯止めはかかったが、縮小にはまだ転じていない。当社では、夏場まで現在と同様の一进一退の状態が続いた後、円安による輸出数量の増加（及び輸入数量の減少）を受けて、貿易赤字が緩やかな縮小へ向かうと予想している。なお、実質ベースでの輸入低迷により、実質貿易収支の4～5月平均は1～3月期対比で赤字幅が縮小した。そのため、1～3月期に続き、4～6月期も外需（純輸出）が実質GDP成長率を押し上げる可能性が高いと考えられる。

欧州向けが落ち込み、アジア向けは戻りが鈍い

5月の輸出を、当社試算の実質ベース・季節調整値に基づき仕向け地別に見ると、欧州向けの低調推移に加え、アジア向けの戻りが鈍いのが目立つ。まず、欧州向けは5月に前月比▲8.8%（4月2.2%）と落ち込んだ。品目別に見てもほぼ全滅であり、欧州域内の景気低迷を受けて日本からの輸出も振るわない。4～5月平均は1～3月期を2.6%も下回っており、2四半期ぶりの減少が見込まれる（1～3月期前期比2.1%）。

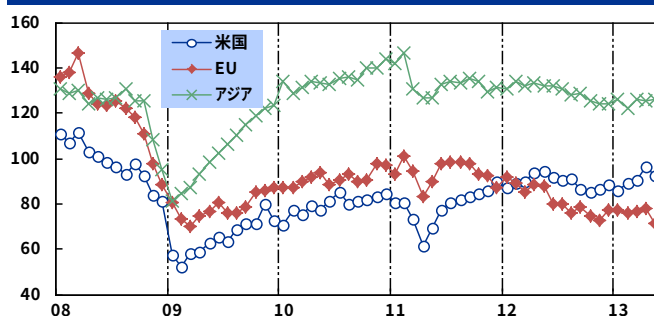
アジア向けは5月に前月比0.7%（4月▲0.5%）と再び増加した。1～3月期前期比横ばいの後、4～5月平均は1～3月期を0.8%上回り、持ち直しへ向かいつつあるが、そのペースは極めて緩やかである。5月の内訳を見ると、中国向けが機械関連を中心に前月比1.2%（4月▲3.1%）と増加したものの、輸送用機器が振るわずASEAN向けは▲3.9%（4月0.1%）と減少した。また、NIEs向けは設備投資関連が伸び2.2%（4月1.4%）と3ヶ月連続の増加である。

4～5月平均の中国向け輸出について品目別の内訳を見ると、増加のほとんどは、販売回復が続く自動車によるものである。中国向け輸出の4～5月平均は1～3月期を1.9%上回るが、自動車を主力とする輸送用機器による寄与が2.0%Ptを占める。中国の景気回復の遅れを映じて、自動車以外の輸出の動きは鈍い。

米国向けは自動車中心に堅調

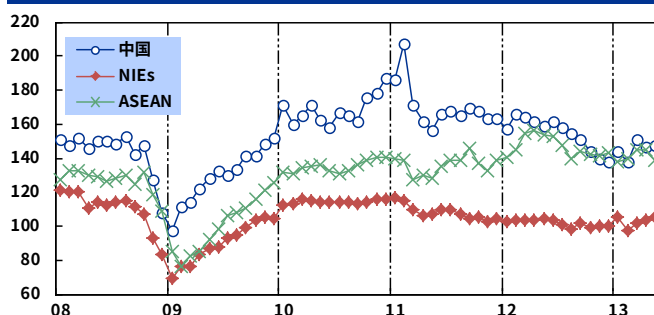
5月の米国向け輸出は前月比▲4.1%（4月6.0%）と減少した。しかし、4月に増加した反動が大きく、4～5月平均は1～3月期を6.1%も上回る（1～3月期前期比2.2%）。他地域向けに比べ、米国向けは堅調と言える。自動車を主力とする輸送用機器が好調である。

地域別実質輸出の推移（2010年=100）



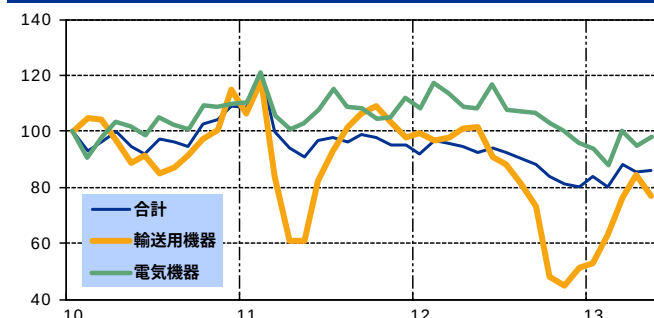
（出所）財務省、日本銀行

対アジア実質輸出の推移（2010年=100）



（出所）財務省、日本銀行

中国向け実質輸出（2010/1=100）



（出所）財務省、日本銀行